

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成21年度採択)

中間評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
21-1	道路交通の時間価値についての研究	東京大学大学院 准教授 加藤 浩徳	A

< 研究の概要 >

道路交通時間価値の推定方法に関する国内外の研究動向ならびに運用状況を踏まえつつ、我が国の実情に即した道路交通時間価値の推定方法を検討する。また、我が国の実データを用いて、道路交通の時間価値設定のあり方について検討する。

< 中間評価結果 >

特記事項を参考にしつつ、現行のとおり研究を推進することが妥当である。

< 参考意見 >

1. 以下の点を踏まえ、大局をつかんで骨太な内容のレポートが作成されることを期待する。
2. 所得接近法と経路選択モデル法とによる時間価値評価は、前者はそもそも経路選択行動を背景としていない等、評価の根本思想が異なり、理論の優劣はつけ難いと考えられる。また、両者の相对比较ではなく、絶対精度の評価も困難と考えられるので、各手法による時間価値推定値の単なる並立にとどまらないように、それぞれの手法の適用性の評価、あるいは位置付けに関する具体的、かつ我が国の国民一般に受容され得る枠組みに、見通しをつけるようにしていただきたい。
3. RP データによる時間価値算定値の妥当性を SP データで検証するのが H23 年度の 1 つのポイントと考えられ、その際の比較評価を適切に行っていただきたい。有益な政策インプリケーションを期待する。
4. 各国の手法比較は重要であるが、各国によってパラメータが異なる可能性があると思われるため、結果が各国で比較検討可能なのか言及いただきたい。
5. 今後、東アジア等で共通化できる提案を目指していることを表明し、世界銀行やアジア開発銀行で使われている手法とも比較検討をお願いしたい。
6. 次年度の取りまとめでは、研究成果の有効性をより高めるため、交通需要予測や費用便益分析等、具体的な事例で従来手法との違いを例示いただきたい。
7. 現行の費用便益分析マニュアルと乖離した時間価値や欧米諸国と異なる傾向の時間価値が推定された場合、その要因を分析し、結果をどのように取扱うかについて、整理いただきたい。